門

『門』としての道の駅。

現在の道の駅は
本当に地域とつながっているのだろうか

特産品やローカル情報、それだけでその場
所を知り得たことになるのだろうか

物やうわべの知識からではなく
その場所を身をもって感じ取ることの
大切さを「真の地域とのつながり」
と考えたい

その場所と訪れる人々をつなぎ
伝えるための道の駅。　それが　「門」

高速道路。
均質な空間が続く、移動のためだけの道。

その道を出ると生活が広がる「まち」に
つながる。

その境界には緩衝帯が存在しない。
しかしそこには町を印象づける可能性が
ある。

訪れた人にまちを強く実感させる場所･･･

山と海に囲まれ、湯煙が立ちのぼる町
大分県別府市。

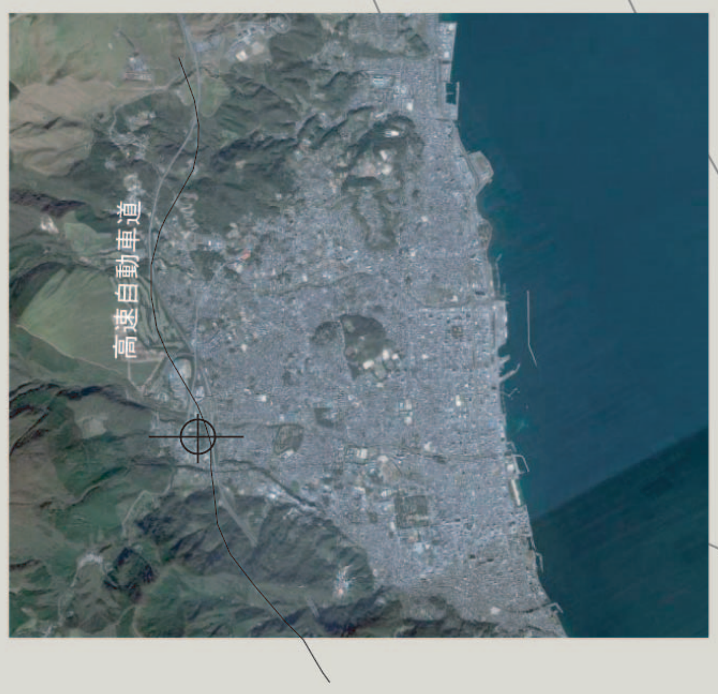
古くから宿場町として栄え
住民と来訪者が心地よく溶け合う町である。

しかし現在そんな町の入口を彩るのは

ファッションホテル。

ここに来た人を迎え入れるための
「門」のような道の駅のかたちを提案する。

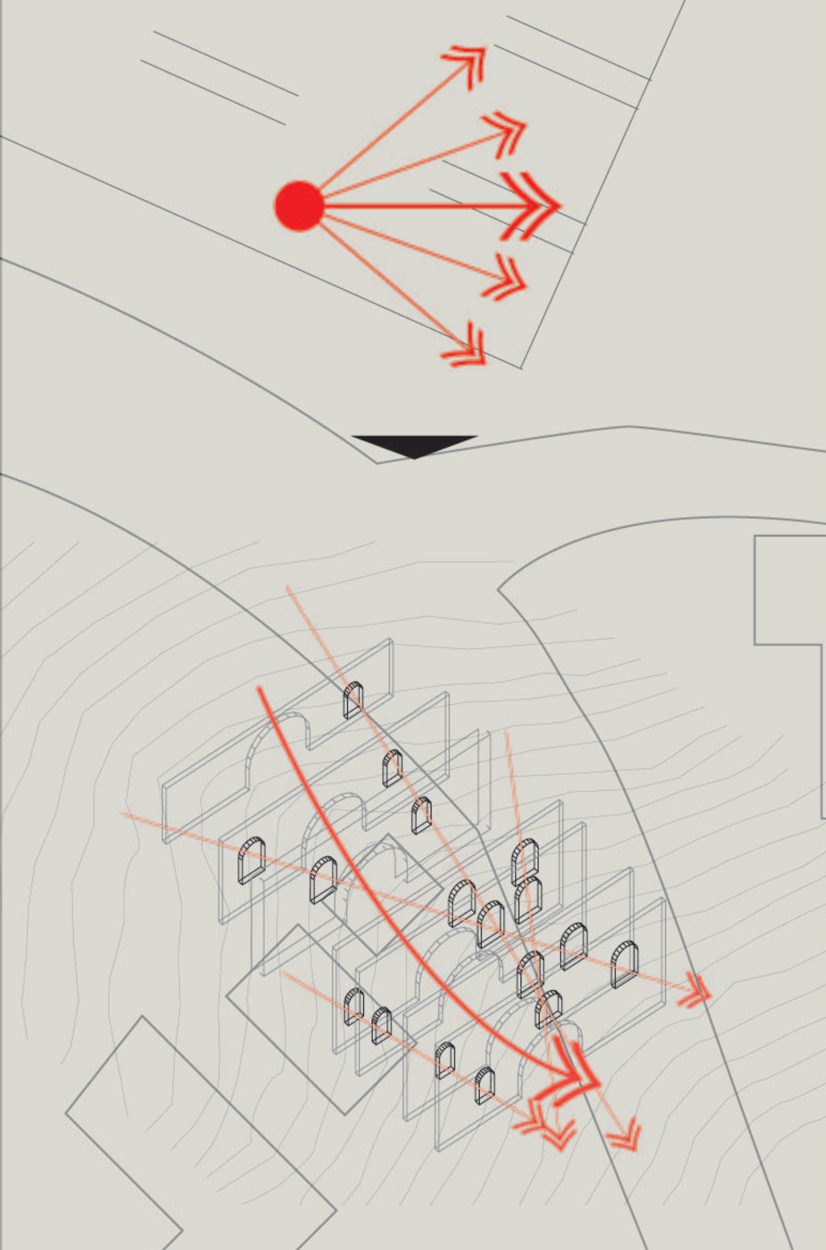
敷地



別府市の最大の特徴は山・町・海が近接するこの地形にある。温泉ほどの知名度はないが別府という町を象徴する大切な要素の一つである。

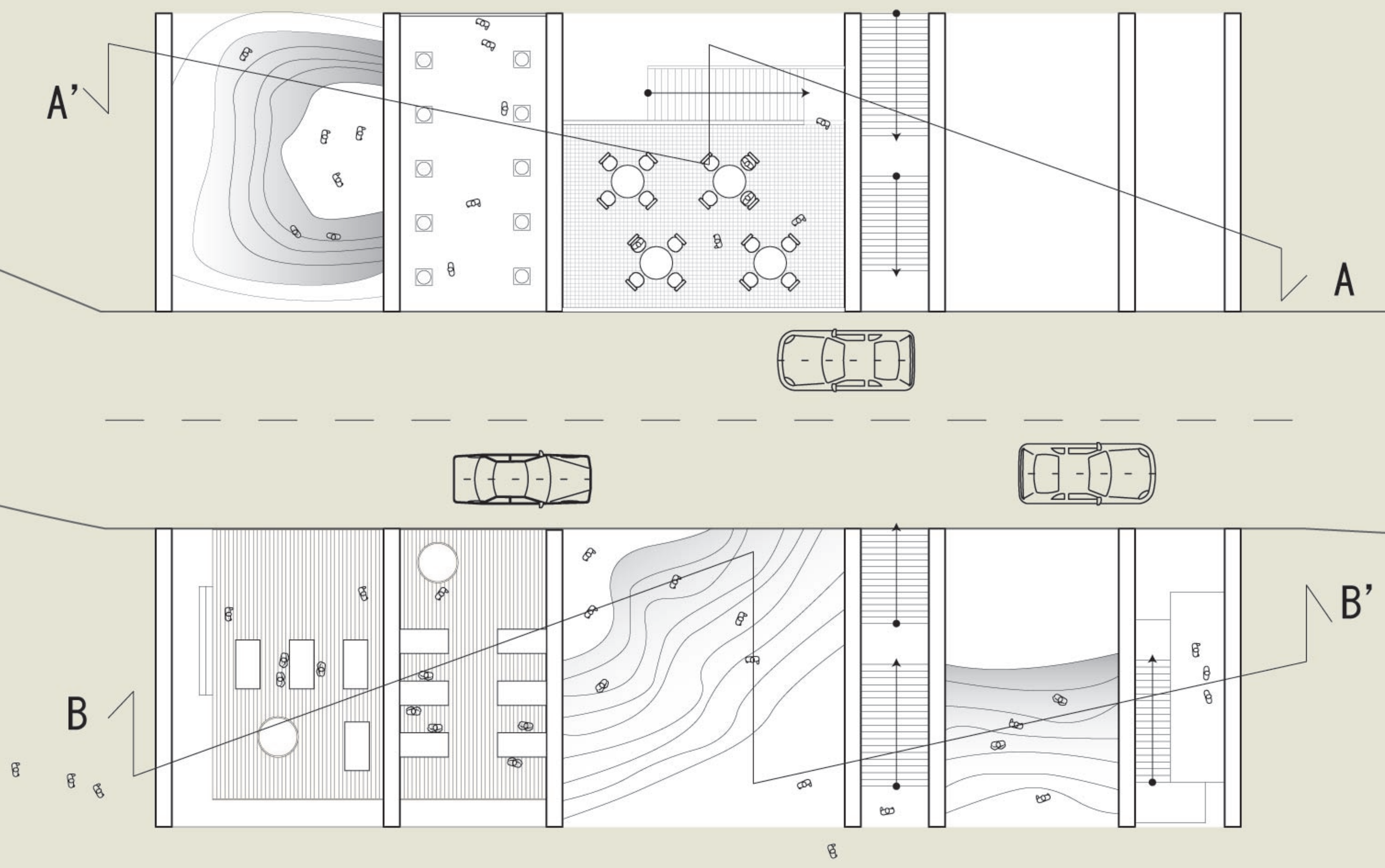
本計画においてはこの風景を利用し人々がこの町に出入りする瞬間を演出する道の駅「門」を提案する。

風景の切り取り

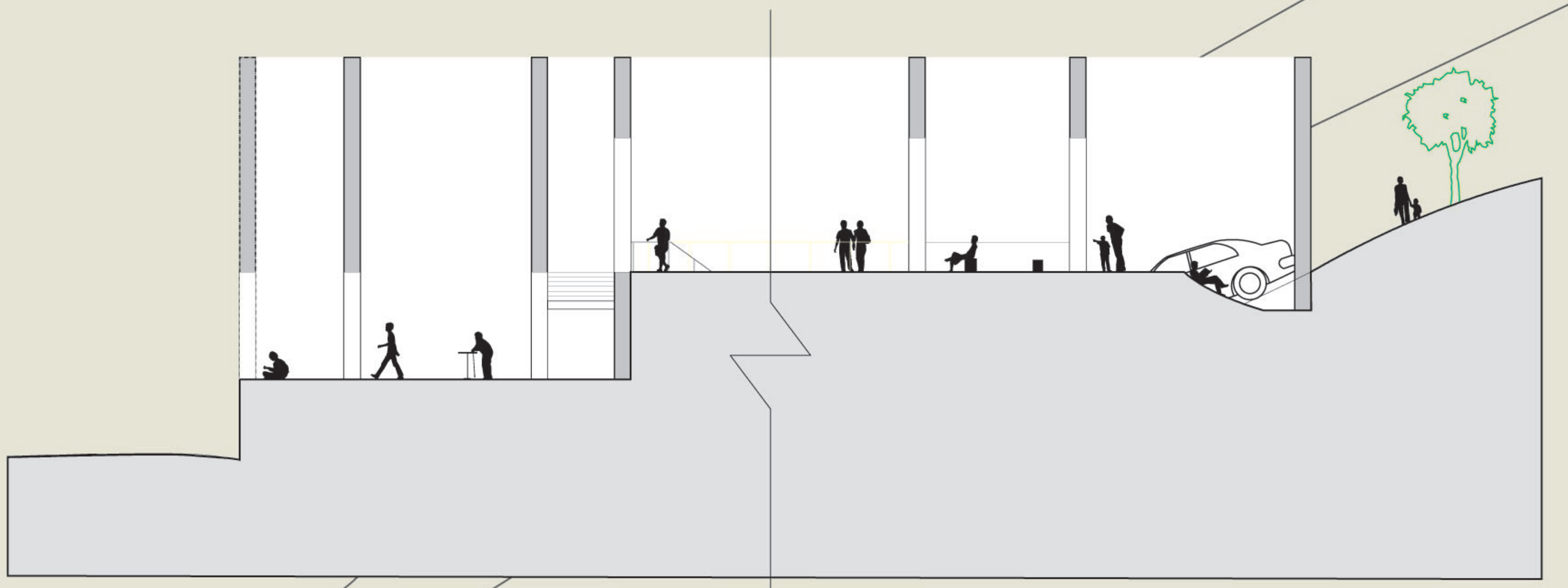


敷地から見下ろした風景を角度によって分け
各々の連続する開口によって切り取る。
高速を降り、町に入っていくまでの過程を
演出する。

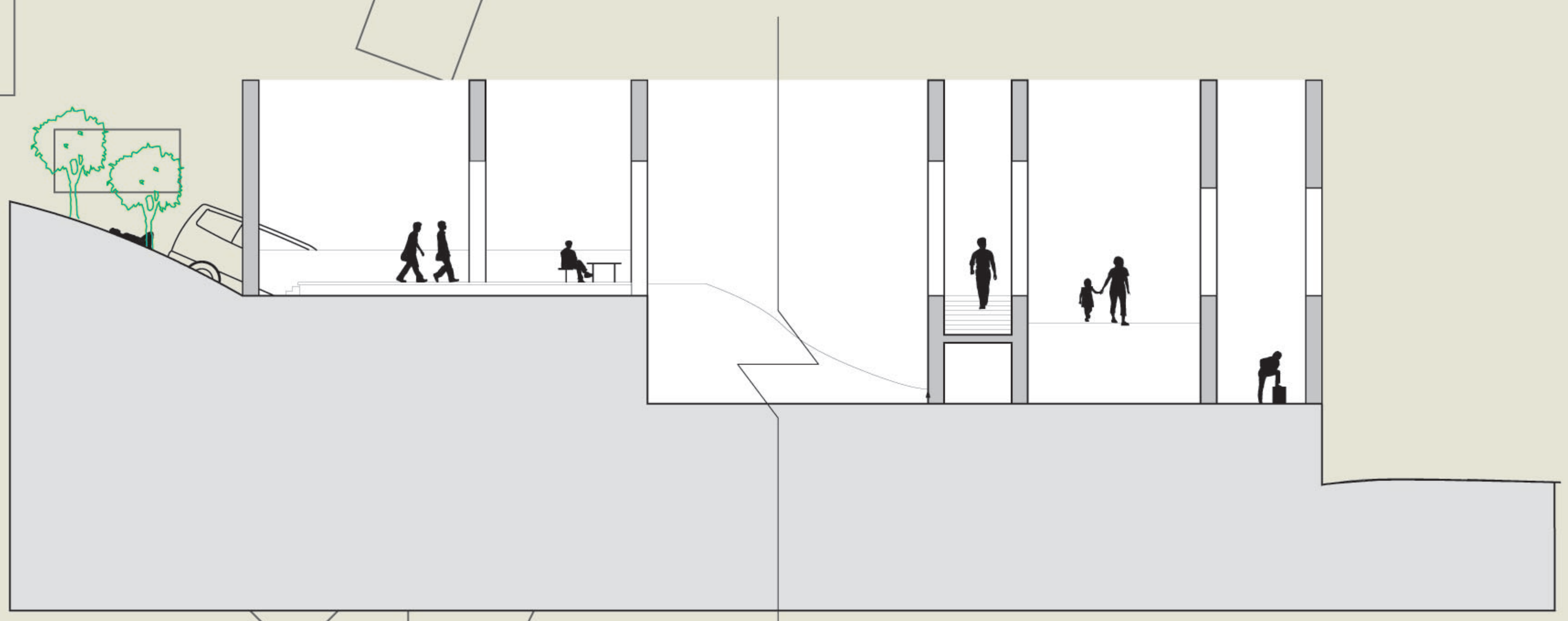
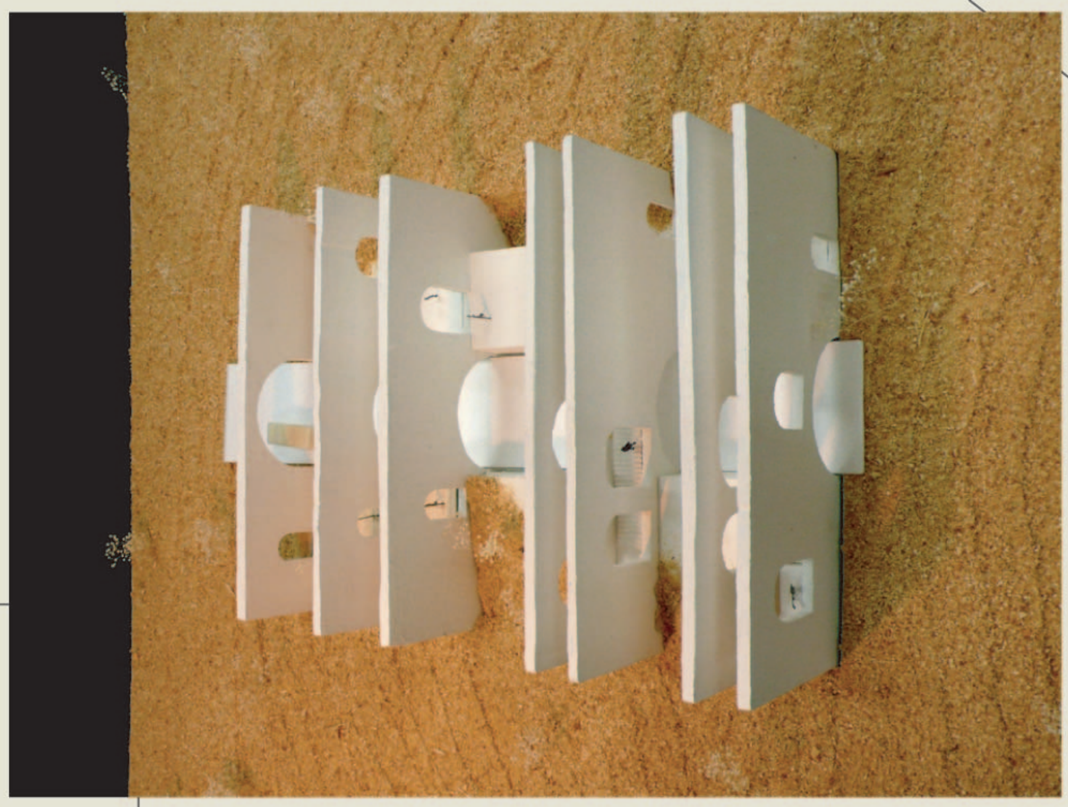
設計概要



平面・配置図　1：400



A-A’ 断面図　1：400



B-B’ 断面図　1：400